

若者が求める抜本的な年金改革に、どう向き合うか

抜本改革として、個人勘定による積立方式の導入を求める声が、若い世代を中心に起きている。ごく簡単に言えば、現在の厚生年金を廃止して、現在の個人型確定拠出年金（iDeCo）のような仕組みを公的年金にすべき、という意見である。

確かに、現在の公的年金制度には世代間の所得移転や世代内の所得再分配という社会連帯が組み込まれているため、自身の資産運用の結果で年金額が決まる iDeCo などと比べて、複雑な仕組みと言える。加えて、既存の制度へ否応なしに加入させられることに対する、若い世代の違和感も理解できる。

とはいえ、若い世代の意見を政策目標として掲げるのが社会政策として正解とは限らない。人間には近視眼的な傾向があるため、若い時期ほど将来に受け取る年金の価値を軽視しがちである。

年金制度は「親のおせっかい」のようなものと言われる。おせっかいを嫌がる子どもに「勝手にしろ」と言うべきか、嫌われてもおせっかいを続けるべきか。公的年金の給付水準を下げつつ iDeCo 等の優遇を進める現在の方向性が、中庸ではないだろうか。

《目次》

- ・（資産運用）：株式投資単位の庶民化が「貯蓄から投資へ」のために必須
- ・（年金制度）：在職老齢年金制度の廃止と就業・年金受給行動（仮想実験）
- ・（資産形成）：企業価値向上と家計の資産形成を結ぶ「人的資本」の役割